

平成17年度 第1回定例理事会 速報録

日 時 平成17年5月28日（土）午後1時～2時50分
場 所 ホテルメトロポリタンエドモント・「千鳥」3F
出席者 38名＋委任状21通（定数62名）、顧問・参与等6名

〔承認事項〕

1. 会員の入退会について

北海道登別市・登別厚生年金病院等正会員の入会が3件と退会4件、賛助会員の入会3件と退会2件について諮られ、承認された。計、正会員数は2,696病院（公的946・私的1,750、総病床数71万1,792床）、賛助会員数は517会員となった。

2. 厚生労働省及び各団体からの依頼について

平成17年度「愛の血液助け合い運動」の後援依頼（依頼元・厚労省医薬食品局長）等6件の依頼事項について諮られ、承認された。

3. 人間ドック・健診施設機能評価の認定について

三重県・四日市健診クリニック等6件の機能評価認定について、評価判定報告書にもとづき諮られ、承認された。

4. 平成16年度事業報告について（山本会長）

平成16年度事業報告として会務報告、会員状況、会議、委員会・部会、予防医学活動、診療情報管理課程通信教育、第54回日本病院学会、国際モダンホスピタルショー2004、国際活動、広報、混合診療に対する取り組み等22項目の総括説明があり、承認された。報告書は全383ページとなる。

5. 平成16年度収支決算ならびに監査報告について

平成16年度収支決算として、一般会計及び5特別会計合計の当期収入合計が18億2,083万円、当期支出合計15億8,732万円となる総括表と各会計の収支決算書について説明があり、承認された。

6. 副会長の人事について

4月の常任理事会に引き続き、川合副会長が申し出ている健康上の理由による副会長辞任の件を了承。後任に佐藤眞杉常任理事を選出した。また、常任理事の補充については7月の理事会で選出するとされた。

〔報告事項〕

1. 第55回日本病院学会について（福田常任理事）

平成17年7月18日～19日の両日、名古屋市・名古屋国際会議場で第55回日本病院学会を福田浩三学会長により開催。一般演題、ポスターセッションを合わせて490題集まったと報告した。

2. 有限責任中間法人日本人間ドック学会の設立について（奈良副会長）

当理事会前に日本人間ドック学会臨時評議員会が開催され、人間ドック学会の法人化が正式に決定した。現在、会員3,950名。平成18年に予定されている沖縄のドック学会では、第1回国際人間ドック学会を開催すると説明された。

3. 平成17年春の叙勲・褒章受章者について（山本会長）

平成17年春の叙勲・褒章受章者に当会が推薦した元原利武常任理事が瑞宝小綬章を受章した旨を紹介し、その他、会員病院の国保日高病院長と会員病院の職員5名の受章があったと報告した。

〔協議事項〕

1. 日本病院団体協議会（日病協）について（山本会長）

厚労省保険局医療課からの依頼で、平成18年の診療報酬改定に向けて病院団体の窓口を一つにし、意見を集約してもらいたいとの事から日本病院団体協議会が発足した。病院関係団体7団体（四病協各団体に全自病協、公私病連、医大協を合わせた団体）が集まり4/26に第1回の会合を行い、5/23の第2回会合では、国立大学附属病院長会議、日本療養病床協会が加盟して9団体で協議した。当面の目的は、平成18年の診療報酬改定の要望書を取りまとめることとし、具体的検討を行う実務者会議を各団体より1～2名で

構成し検討していく方針とした。要望書は8月中旬から9月初旬に作成予定。

2. 医療制度委員会について（5/27 邊見常任理事）

日本病院団体協議会の診療報酬実務者会議で取り組む必要がある検討項目をまとめた。①入院基本料における看護配置基準、ハイレベルの看護配置を進めるため1.5:1、2:1等の看護基準は病棟毎ではなく病床毎に病床規模によって選択、②ハイケアユニットと集中治療室との違い、③手術の施設基準、手術件数による手術料減額は廃止、「技術料」と「もの」とは分離すべき、④回復期リハ・救急医療・小児救急・精神科救急等、⑤医療安全の点数評価、⑥医療療養病床、施設を医療保険と介護保険に振り分けたため制度上、要介護者の医療が保証されない場合が存在するので医療保険と介護保険の施設を振り分けるのではなく提供サービスに応じて適用、⑦加算（時間外・休日）、⑧紹介率、救急患者、⑨保険適用外の医療材料の取り扱い、⑩初診料、再診料など10項目を提案した。

以上、報告事項については時間の関係上、医療制度委員会の他は省略され終了した。この後、代議員会・総会に移り、平成16年度事業報告、平成16年度収支決算について、いずれも提案どおり承認された。